

# 兵庫県立病院 救急医育成プログラム

## 参加医募集

兵庫県では多彩な県立病院群を基幹施設とした  
5つの救急科専門研修プログラム  
更なるスキルアップを目指す  
キャリアアップ研修で  
救急科医師の活躍を応援します

救急科専門研修プログラム

3年

キャリアアップ研修

2年  
以上

キャリアアップ研修で諸条件を満たせば  
国内・海外の希望施設で短期～最大2年間の  
研修制度にエントリーできる！

救急から災害医療まで、幅広い研修フィールド

区分	病院名
救急	高度救命救急センター 災害医療センター
	救命救急センター 尼崎総合医療センター、西宮病院、加古川医療センター、はりま姫路総合医療センター
	地域救命救急センター 淡路医療センター
災害	基幹災害拠点病院 災害医療センター
	災害拠点病院 尼崎総合医療センター、西宮病院、加古川医療センター、はりま姫路総合医療センター、淡路医療センター、丹波医療センター



## 救急科専門研修プログラム

【対象者】 卒後初期臨床研修を修了（見込み）の医師

【研修内容】 各救急科専門研修プログラムに所属し、救急科専門医を目指す。

詳細・連携施設は各基幹施設ホームページ・プログラム冊子をご参照ください。

【応募方法】 研修希望施設に直接お問合せください。

基幹施設	プログラム定員	プログラム問合せ先
尼崎総合医療センター	3名	総務課担当者 rinshokenshu@agmc.hyogo.jp
西宮病院	2名	総務課担当者 rinken-kn@hp.pref.hyogo.jp
加古川医療センター	3名	救命救急センター長 sanosyu01@gmail.com
はりま姫路総合医療センター	6名	診療サポート課専門研修担当 rinken_harihime@hgmc.hyogo.jp
県災害医療センター	4名	総務課担当者 e-soumu01@hemc.jp

※定員は 令和5年時点であり今後変更の可能性があります



## キャリアアップ研修

【対象者】 救急科専門医資格を取得（見込み）の医師

【目的】 救急医としての更なるキャリアアップ（サブスペシャリティ・ダブルボードも可能）

【研修開始時期】 随時。

【応募方法】 まずは裏面の問合せ先までご連絡ください。

コース	定員	対象施設
救急科コース	3名程度	尼崎総合医療センター、西宮病院、加古川医療センター、はりま姫路総合医療センター、淡路医療センター、災害医療センター
サブスペシャリティコース		上記に加え、丹波医療センター、こころの医療センター、こども病院、がんセンター
他の診療域		そのほか施設も選択可能
ダブルボードコース		

※研修に2年以上参加し、諸条件を満たせば大学院での研究、国内・海外留学が可能(選考あり)



## 海外留学体験談 西村 健 先生（兵庫県災害医療センター救急部）

留学先：アメリカ・ピッツバーグ大学

兵庫県の留学制度を利用し、全米でも屈指の救急医学講座を持つピッツバーグ大学で約2年間研修を行ってきました。日米の医療や研究への取り組み方の違い、また生活様式の違いなどを体験でき、非常に有意義な時間を過ごせました。

ピッツバーグは街全体で医療を支える体制ができており、University of Pittsburghが、ピッツバーグを代表する企業の一つとして大きな雇用をもち、街を支えていました。ラボでは毎月研究の進捗状況を確認するリサーチカンファレンスが開かれ、医師だけでなくたくさんの人物が参加して各々の研究について討論を行うなど、主に医師だけで行う日本の臨床研究とは規模が全く異なっていました。ピッツバーグ大学救急部からはアメリカの蘇生学をテーマにしたResuscitationという雑誌に毎週のように論文が受理されており、一流の救急部であることを実感しました。現地では統計学を含めて研究に打ち込み、英語の勉強も継続して行える理想の環境で、並行してアメリカの医師免許の勉強や、更なる臨床研究の構想を練るなど行い、学会活動ではアメリカ外傷外科学会(AAST)に発表の機会も得られました。

またJournal of Surgical Researchを機関紙に持つAcademic Surgical Congressにも参加するなどに加え、日本のデータをまとめた論文も執筆でき、最終的にはアメリカの研究結果をJournal of Trauma, Acute Care Surgeryに掲載することができました。

留学にあたり、サポートしていただいた災害医療センター、兵庫県の皆様には心から感謝するとともに、今後臨床を基盤とし、医師として持った臨床的疑問を科学的に解明する精神を、県立病院に所属する救急医に広く根付かせ、兵庫県の救急救命医療のレベルアップに貢献していきたいと考えています。

写真：兵庫県・神戸市防災航空隊ヘリコプター搭乗中の西村健医師

